

YMCA News




10年後

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

16 平和と公正を
すべての人に

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です。



「今の出会いが10年後の自分の人生の豊かさを決める」と、ある人から言われたことがある。私自身、十数年前に盛岡YMCAと出会ってなければ、今とは全く違う人生になっていただろう。社会福祉の分野を学ぼうとしていたものの、ボランティアや子どもに関する事にはあまり興味がなく目的意識もそれほど持っていなかった私が、盛岡YMCAからの1通のメールに始まり、子どもたちと関わる今の仕事を選ぶに至っている。私の子どもに寄り添う姿勢や考え方は大学生リーダー時の体験が基盤になっているように思う。

仕事柄、子どもたちを取り巻く環境が変わったことはもちろん、子どもの質が変わったとも聞く。けれど、本当に子ども達は変わったのだろうか。子どもたちの、何かを見つけたときの目の輝きや、周りの声も耳に入らないほどの真剣さ、好きなことをし続ける情熱...これらは私がリーダーをしていたときと何も変わっていないように感じる。変わったのは子どもたちを見る大人たちの目ではないか。大人の粋や都合に子どもは当てはまらないということ、どこか忘れていたような気がする。そんな中、盛岡YMCAはいつでも“子どもらしさ”や“その人らしさ”を大事にしていたように思う。実

際にリーダーとして活動していた時も、様々な価値観の人が集まり、意見が対立する事もしばしば。このような状態で大丈夫だろうかと思った時もある。けれど、意見が対立するものも譲り合えるもの、ありのままの自分を出せるからなのだろう。子どもたちのことを最善に考えていけば、最後には自然にまとまるものだと幾度となく納得させられた。今も何かにつまづいた時、「YMCAのリーダーやスタッフはどのように捉え、対応するだろう」と考える事がある。リーダーとして活動していた時のように、物事を子ども目線で見ていかどうか、私の子どもへの接し方の原点なのだろう。

10年前に盛岡YMCAに影響を受けて今を生きている私の、さらにまた10年後が楽しみでもある。私は10年前、そして、今誰かに何かを残しているだろうか。子どもたち、そして自分自身の10年後に何らかの影響を与えているような、そんなYMCAやリーダーたちであり続けて欲しいと思う。

※10年経った今、路子リーダーは小学校2年生を筆頭に3人の男の子のママになっていました。秋田の保育園で活躍中です。

ボランティアリーダーOG 太田路子
(盛岡YMCAニュース2012年2月号巻頭言より)

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

わんぱくキャンプ



私たちは1泊2日の「キャンプ」の目標として、「自然体で遊べる関係」と「心の繋がった関係」の大きく2つのことがキャンプで生まれることを掲げていました。

1日目の出発時は緊張している様子も見られた子ども達ですが、バス内でのレクリエーションや昼食の時間で、緊張がほぐれ出ていた様子でした。その後のレクリエーションでは、グループで協力してゲームをクリアする様子が見られました。テント設営ではグループで力を合わせてテントを立てていました。その後は、雨が降っていたこともあり、テント内でグループごとにゲームやおしゃべりをしながら楽しく過ごしていました。



2日目は特にグループで話す場面が多かったと思います。起床から朝食の時までは、1日目にあったことや、2日目にやりたいこと等話をしていました。その後のテントの片付けでは、それぞれが自

主的にやることを見つけた場面が多かったです。また、最後のフリータイムでは、池で水遊びをしたり、魚を捕って遊んだり、広場で野球をしたりしている姿が印象的でした。

特にフリータイムでは、各々が思いっきり遊んでいたと思います。また、遊ぶ場所や内容が違っていても、他の子やリーダーに「○○をして遊んでよ」などを教えてくれる場面もありました。

今回のキャンプでは子ども達の成長を多く感じる場面がありました。これからも、リーダーという立場から子ども達の成長のために貢献できるように頑張りたいと思います。わんぱくキャンプに携わって下さった皆様本当にありがとうございました。今後ともよろしくお祈りします。

岩手県立大学4年 十文字 堅斗 (おびリーダー)



川の大冒険キャンプ



8月4日(木)～6日(土)にかけて、花巻スポーツランドで3泊4日の川の大冒険キャンプをしてきました。

1日目はバスのプログラムを通して楽しく移動し、到着してからはテントを立て、早速探検プログラムを行い、生き物を探したり、捕まえました。子どもは熱中して虫を捕まえ、捕まえた子どもの周りには、自然と他の子どもたちが集まり話したりしていました。他にも生き物を見つけるため手分けしたり静かにしたり、と遊びの中でグループの輪の形成が見られました。

2日目は体験活動があり、係員の方から北上川や花巻スポーツランドについてのお話を聞いたり、ラフティングや川遊び体験を行いました。体験活動を通して、川の力の凄さや恐ろしさ、楽しさを感じている姿や、川の近くを歩く時は子どもたちでお互いに、安全の声かけをする姿も見られようになりました。フリータイムでは広い野原で、グループの垣根を越え

鬼ごっこや野球をしたり、突発的にリーダーをみんなで捕まったりみんなで遊ぶ姿が見られました。3日目は川遊びで水切りや川に入ってリーダーと子どもたちで相撲を取ったり、川の流れて沿って転がって楽しく過ごしました。帰りのテントの片付けでは、声を掛け合いどのグループテキパキとやっていました。今回の川のキャンプでは、子ども達は自然を特に感じるキャンプだったと思います。自然に囲まれ、プログラムやキャンプ生活の中で自然に、人間関係や自然環境やキャンプのことを学んでいました。大きな怪我もなく3日子どもたちと笑顔で楽しくキャンプを終えることが出来ました。ありがとうございました。



盛岡大学 菊池 龍仁(フォルテリーダー)

森の大自然満喫キャンプ



森の大自然満喫キャンプには、小学1年生から6年生までの幅広い年齢層の子どもたちが参加しました。2日間だけのキャンプでしたが、とても中身の濃いキャンプだったように思います。1日目は、キャンプ場に到着し、お昼ご飯を食べた後で、グループごとに外山森林公園の探検を行いました。子どもたちはとんぼをたくさん捕まえたり、オリジナルの釣り竿で釣りをしたり、秘密基地づくりをしたりと大自然のなかで思いっきり楽しんでいました。夜はキャンプファイヤーを行いました。炎を囲み、ゲームをしたり歌を歌ったりしながら、森キャン1度だけの夜を全員で盛り上がりました。2日目はグループごとに宝探しをしたり自然にあるものでビンゴ対決をしたりしました。1日目に比べ、子どもたちは自分の思いを積極的に伝えるようになり、グループ内でたくさん話したり協力し合ったりしたことで仲が深まりました。キャンプ終了時には、「また参加したい!」という声がたくさん聞こえてきて、とてもうれしかったです。

森キャンを終え、参加したメンバー全員で支え合ったからこそ、楽しく記憶に残るキャンプを作りあげることができたと実感しました。リーダーも子どもたちも互いに声をかけ合い、助け合いながら成長できたように思います。支え合いの大切さを学んだ森キャンに参加できて、本当に良かったです。ありがとうございました。



盛岡大学 竹ノ子 稜 (うめぼしリーダー)



7月16日土曜日、盛岡市内の内丸教会にて、子ども9名リーダー13名で7月サンデースクール「僕らのヒーローショーアカデミア」を実施しました。当初、6月に開催予定だった今回のサンデースクールですが、コロナの影響により1ヶ月延期しての実施となりました。内容は、空気砲作り(工作)とヒーローショー(レクリエーション)を掛け合わせたもので、敵役のリーダーを自分で作った空気砲で倒すというストーリー構成で進んでいきました。

空気砲作りでは、作り方通りに綺麗に製作する子どももいれば、作り方よりも材料を増やして大きくて見た目もカッコいいものを作る子どももいました。特に男の子達は自分のこだわりが詰まった自慢の空気砲を作ることができて、満足そうな様子でした。空気砲作りが終わると、敵を倒すための特訓として、空気砲を用いた「的当て」「絵探し」「ボール運び」の3つのゲームで遊びました。「的当て」のところでは、タイムアタックで競い合ったり、的となっている紙人形と空気砲で紙相撲をしたりして楽しみました。

工作とミニゲームの時間が終わると、いよいよ最後のヒーローショーです。敵にさらわれたリーダーを助けるべく、子どもたちとリーダー達が空気砲を使い、協力して敵を倒すという王道のストーリーではありましたが、男の子達を中心に盛り上がり、ヒーローショーが終わると、リーダーが作った空気砲を含め、手に抱えきれない量の空気砲を持ち帰る子もいました。

コロナの影響によりなかなか思い通りにいかないところもありますが、今後も子どもとリーダーが楽しいと思える、サンデースクールをつくっていきたいと思います。

岩手大学4年 小河原悠加(ぶんちんリーダー)



今回の野外活動は6月25日の土曜日、外山森林公園にて、グループごとにホットケーキを焼いて食べようという活動を実施しました。

当日集まった子どもたちは、ホットケーキを焼いて食べることを楽しみにしていたというメンバーが多く、朝から元気いっぱい活動がスタートしました。

外山森林公園に到着し、グループごとのホットケーキ作りを始めました。厳しい暑さのなかでしたが、安全のために子どもたちは服装等のルールをしっかりと守りながら活動することができていました。リーダーと一緒に安全に気を付けながら薪割りや火付けを行い、今回の目玉であるホットケーキを焼き始めると、子どもたちの目線はダッチオーブンに釘付けでした。ホットケーキをひっくり返すたびに、「美味しそう!」と盛り上がり、焼き上がりを心待ちにしている様子が見られました。

できあがったホットケーキはお昼ご飯と一緒に食べました。ホットケーキには、シロップやバナナ、マーガリンなどのトッピングもでき、それぞれ好きなトッピングを楽しみながら美味しく食べることができていました。自分たちで焼き上げたということもあり、子どもたちの表情はとても満足そうでした。

午後からのフリータイムでは、池の方へ行きリーダーと全力で水遊びをしたり、虫を探して走り回ったりしながら、時間いっぱいまでそれぞれ思い思いの楽しみ方で過ごしました。普段食べたこともあるであろうホットケーキも、野外でみんなと作ることで美味しく楽しく食べることができました。



岩手大学4年 星野太志(ゲンリーダー)

チャリティーラン延期のお知らせ



9月23日(祝)岩手県立大学において予定されていた「盛岡YMCAインターナショナルチャリティーラン2022」は、新型コロナウイルスの第7波のため、3月に延期することとなりました。誠に申し訳ありません。感染対策をより

徹底し多くの方が安心して楽しく参加できるよう準備を行ってまいります。大会実施等内容につきましては、今後ニュース等でお知らせしていきます。

盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン
主担当 東森 聡

エコキャップ活動へのご協力をお願い



盛岡YMCAではSDGsの取組を進めており、その一環として、第一生命保険株式会社盛岡支社様と協働し、エコキャップ活動を行っています。

エコキャップ活動の取組の詳細、並びに趣旨につきまして以下ご確認いただき、皆様からのご協力をいただけますようお願い申し上げます。

■ 取組みの詳細

- ・ぶらいむ・たいむ各校に【エコキャップボックス】を設置します。
- ・ご家庭で出たペットボトルキャップをお持ちいただき、設置している【エコキャップボックス】に入れていただくか、職員へお渡しください。
- ・児童クラブ(ぶらいむ・たいむ)以外の活動へご参加いただいている方につきましては、各活動の担当スタッフへお渡しいただいても構いません。
- ・活動期間は特に定めておらず、回収業者が随時回収を行います。

■ エコキャップ活動とは

- ・ペットボトルキャップを回収し、専門業者により粉砕加工をしたのち、売却した代金を、活動団体「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JVC)」へ寄付することで、海外の子どもたちにポリオワクチンが届きます。
- ・ペットボトルキャップの適切なりサイクルにより、CO2削減へつながります。

フードバンク岩手食料寄付報告



夏休みを迎えるにあたり、NPO法人フードバンク岩手の行う、フードドライブ(食料支援)へのご協力をお願いいたしました。

ご寄付にあたっては、児童クラブ(ぶらいむ・たいむ)参加者のご家庭を中心に、以下の通り頂戴いたしました。

品目	数量(kg)
パックご飯	2.56
おかず類	8.44
麺類	3.08
調味料	2.76
飲料	1.78
お菓子類	2.94
合計	21/56

今後も、地域の諸団体と協働し、地域の抱える課題に向けた取り組みをしていきます。

YMCAの会員の皆様には、都度取組みのご案内を差し上げますので、ご協力の程お願い申し上げます。

盛岡YMCA本部事務局 浅沼 慧



盛岡YMCAの活動では、大学生ボランティアリーダーの活躍が欠かせません。その一方で、あまり知られていないかも知れませんが、YMCAには学生リーダーのようにYMCAが大好きでYMCAの活動を日々支えて下さっている社会人のボランティアの人たちの集まりがあります。それがワイズメンズクラブです。今回ももりおかワイズメンズクラブの活動やメンバーの皆さんを紹介していきますよ!!

▼ 誕生!!農業青年部!!



もりおかワイズメンズクラブのメンバーの一人加藤淳さんは、南部片富士印というブランドで岩手県が生んだ枝豆の品種“秘伝”をオーガニックで栽培しています。盛岡YMCAのスタッフやリーダーたちも、時折、畑を訪れ、苗の定植や収穫のお手伝いをしています。そして、その都度、振舞われる野外料理の美味しいこと!!リーダーたちはそれが目当てでいっているみたいです。そんなこんな活動がかれこれ3年も続いてきて、この度、盛岡YMCAのリーダーたちに畑を提供していただけることになりました。人参や、ミニトマト、“黒仙石”という品種の枝豆を栽培しています。畑を持っているリーダー会というのも全国YMCAの中では珍しいと思います。

盛岡YMCAリーダー紹介⑦



【かっぱ】



こんにちは!最近日焼けをして真っ黒になってしまい、とても落ち込んでいるかっぱです!私は主に土曜サッカーやサンデースクールに参加していて、元気な子どもたちについてパワーをもらっています。サッカーは下手っぴなので、子どもたちに怒られながら活動しています(笑)

かっぱというリーダー名からか、よく遠野出身に間違われますが、宮城県仙台市出身のシティガールです!今は同じ大学に通う兄と盛岡で二人暮らしをしています。中学校から高校まで剣道をしていました。

かっぱなのに苦手な食べ物はきゅうりです。そして、かっぱなのに泳ぐことも苦手です。どのくらい下手なのかというと、プールで真剣に泳いでいたのに、溺れていると勘違いされて救出されたことがあるくらいです。

私の好きな言葉の一つに、「本気の失敗には価値がある」というものがあります。リーダーとして活動していると、できないこと、苦手なこと、初めてやることにも臆せず挑戦する子どもたちをよく目にします。挑戦して失敗してしまったとしてもそこから学習し、次成功するための糧にしてまた挑戦する...そんな場面に出くわすたびに私は感銘を受けると同時に、私も子どもの時にこんな風に挑戦すればよかった、と思います。私が幼い頃は、失敗を恐れて挑戦することから逃げていたからです。でも、今からでも遅くはないと思います。挑戦しないと何も始まらないこと、本気の失敗には価値があることを教えてくれてありがとう。これからはきゅうりや水泳とも向き合っていきます。

友達に誘われて盛岡YMCAのリーダーになってから、もう1年半が経とうとしています。毎回の活動で子どもたちと一緒に成功の喜びを分かち合ったり、逆に失敗して悔しかったり、新鮮で貴重な経験ばかりさせていただいています。盛岡YMCAで出会った個性豊かで素敵な子どもたち、リーダー、スタッフさん、そしてこれから先の未来で出会うたくさんの方々々に感謝して、子どもたちに負けないくらいどんどん成長していきたいです。

まだまだ未熟者のかっぱですが、これからもよろしくお祈りします!

岩手大学教育学部小学校教育コース2年
石塚茉紘(かっぱ)

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram



夏の暑さも少しずつ和らぎ、秋の気配が感じられるようになってきました。夏の疲れが出やすいこの時期、体をゆっくり休めることが大切です。秋と言えば、スポーツの秋・芸術の秋・食欲の秋...なんて聞きますね。秋は体が冬支度のために、食欲が増し、太りやすくなると言われています。バランス良く食事をするよう、心がけたいですね。小学校で、三色食品群の話をしたことがあると思います。子ども達も、学んでいる最中かも知れませんが、今回は三色食品群とは別に、料理の「色」について紹介しようと思います。

古来、中国から伝わった「五行思想」という自然哲学の思想より、「五味・五法・五色」という言葉があります。

五味とは、以前のコラムでお伝えした味の基本のことで、甘味・塩味・苦味・酸味・うま味のことで、

また、五法とは、生・煮る・焼く・揚げる・蒸すといった基本の調理法のことで、

そして、五色とは青・黄・赤・白・黒のことを言います。

三色食品群は食品の栄養素を素に、体をつくるものとなる「赤」、体の調子を整えるものとなる「緑」、体を動かすものとなる「黄」を言いますが、五行思想の「五色」は全く違う考え方になります。

五色とは、現在で言う「ばえ」。日本料理は、「目で味わう」と言われるほど、色鮮やかで美しい料理が並びます。色とりどりの料理を見ると、食欲がわき、食べる意欲につながります。「五色」は目で見た食材の色を言い、「毎日五つの色を摂れば、自然と元気になれる」という考え方なのです。では、五色の色についてお弁当で例えて説明していきます。

お弁当によく入る食品として、ブロッコリー(青)、卵焼き(黄)、トマト(赤)、ご飯(白)、海苔(黒)があります。目で見たままの色がそのまま五色になるので、初めて五色を知る方も、真似しやすいと思います。ちなみに、五色の「青」は緑のことを言い、緑色の食材を表わします。昔は緑という言葉が無く、青が使われていたので、ほうれん草や小松菜等を「あおもの」と言ったり、緑色なのに青信号と言う言葉が定着しているのです。



日頃から、五目ごはん・五目寿司・五目そば、と「五目」と名の付く料理を食べていることから、私たちの暮らしの中でひっそりと「五色」は根付いていたのです。

五色を意識して料理を作ることで、日常的にさまざまな食品を組み合わせて作るようになり、また、体に必要な栄養もバランスよく効果的に摂ることができるようになります。これを機会に、買い物をするときや、料理を作る際に「五色」を意識してみたいはいかがでしょうか。



盛岡市内保育所調理師
ぶらいむ・たいむ向中野校メンバー保護者
藤原 留美

表紙の写真から



7月に開催された、サンデースクールは、空気砲づくり!!
作業が始まる前、リーダー達の寸劇を観たときの表情。

(2022年度7.8月新規会員) 敬称略
●2022年度 維持会員
武田理恵子、尾形裕一郎、伊藤真一郎、伊藤みどり、清水弘一、釜ヶ澤亮、関誠之、及川茂夫、東森聡、浅沼慧、浅沼美希、菅原茉莉奈、茶畑大地、小川嘉文、小川明佑、佐々木隆弘、田村育代、工藤・シンティア・ラザロ、東館電気、井上修三、井上優子、井上浩太郎、高橋奈菜、水田賢次